

コベルコ製大型解体機が
解体事業者の
ステージアップに貢献

メインブーム兼用型解体機 SK550DLC

山田高弘＝取材・文 三浦泰章＝撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura



鳥取市内の高層ビル解体現場で稼働するSK550DLC。繊細な操作性が、解体するビルの断面まで美しく仕上げるといふ山田産業のこだわりを可能にしている

西日本を代表する
解体業者が目標です!



●今回の訪問先は

株式会社山田産業

所在地／鳥取県鳥取市里仁553-3

☎0857-28-3148

創業／1977年

事業内容／解体工事、アスベスト除去工事、産業廃棄物処分業、産業廃棄物収集運搬業、土木工事、建築工事
従業員数／10名

解体工事の全業務を担う
ワンストップ体制を構築

建設業を生業として創業した山田産業が、本格的に解体業へ進出し始めたのは1990年代のこと。創業者の先代社長、山田勇さんが解体業における今後の可能性に着目し、建設業の傍ら木造住宅の解体を手がけたことに端を発している。その後、2005年に2代目として会社を継いだ山田豪人さんにより、同社は解体工事の専門業者の道を選択することとなった。「会社を継いで間もないころ、県外の解体業者のサポートとして鳥取市内の6階建てビルの解体現場に入ることにになりました。最適な工事計画を立案し、最新の工法を駆使しながら解体していくさまは、それまでオペレータの経験と感覚を頼りに解体していた自分たちの仕事とはまるで別物。階上に重機を上げて解体する方法を目の当たりにしたのも初めてでした。その仕事ぶりに衝撃を受け、これからは解体を専門にやってみよう」と決意しました(山田さん)

県外の解体業者と比べて自分たちは20年遅れていると感じた

株式会社山田産業は、鳥取県および兵庫県、岡山県などの隣接地域にて、木造住宅や商業ビルなどの解体工事を手がけるプロフェッショナル集団だ。コベルコの大型解体機を駆使したスピーディな工事には定評があり、ここ10年で仕事の規模も大きく拡大している。今回は同社が保有する最大クラスの解体機、SK550DLCの活躍を現場からレポートする。

1.セバレートブーム仕様では低層階の地上解体から基礎の解体まで幅広く対応し、大型解体機ならではの安定性とパワーを両立する 2.敷地境界付近の高層階は、シールドで飛散防止しながら2台のロングアームで解体



入社4年目のオペレータ
田中智之さんは、専用ニブラを装着した20t機で大きなコンクリートがらの小割を担当



3.新たに導入したSK550DLCに加え、コベルコ製の20t機3台と30t機2台が同じ現場で稼働中 4.SK350は、廃材をコンクリートがらと鉄に仕分けする作業の傍ら、SK550DLCのサポートもこなしていた 5.超ロング仕様のアームは、地上30mのビル解体にも対応。アームの先には2.5tのアタッチメントを装着し、パワー面も申し分ない



山田さんは、そこから一念発起。一から解体の知識を学び、解体工事施工技士、1級建築施工管理技士、1級土木施工管理技士といった資格を取得。全社員にもそれらの資格取得を奨励するとともに、定期的な面談を通じて個々の仕事における目標づくりにサポートし、自身の解体業に懸ける想いを共有できるスタッフの育成に取り組んだ。

また、工物品質を高めることにも注力し、社内の誰もが的確かつスピーディに作業をこなせるよう、これまでに手がけた案件から得たノウハウをもとに作業マニュアルを作成。さらに、アスベスト除去工事への参入や、現場で発生した廃棄物をリサイ

クルするための中間処理施設も建設するなど、今では解体工事を自社で丸ごと請け負えるワンストップ体制を構築している。

SK550DLCの誇る優れた作業性能に大満足

山田産業では昨今、定期的な大規模案件を獲得している。工物品質向上への努力はもちろん、コベルコの大型重機の積極導入もその要因の一つだ。

「優れた技術があっても、大型機械を保有していなければセネコンなどが管理する大きな案件を受注することはできません」と山田さん。実際、10年と12年に立て続けに35tクラスのコベルコ製解体機を導入したことが、JR鳥取駅の耐震化改修に伴う大規模な解体工事の受注につながったという。

そして16年4月、山田産業ではさらに大型となるコベルコ製解体機、SK550DLCを導入した。同機の稼働現場を訪ねると、同一敷地内に折り重なって建ち並ぶビルの一棟を手際よく解体していた。自らオペレータとして搭乗する山田さんは、その使い勝手をこう評する。

「超ロング仕様のアームは、作



代表取締役
山田豪人さん

業時に大きな負荷がかかるようになります。そのおかげで本体はしっかりと安定。それでいてパワーも十分です。また、解体のコベルコの評判通り、アームや旋回の動きが速く、止めたい場所にピンポイントで止められる繊細な操作性も健在ですね」

組み立てても自社スタッフだけで1時間以内には完了。同機の活躍により、低層階のビル解体工事と変わらない工期が実現できる見通しだ。

県外の解体業者の仕事ぶりに衝撃を受けた日から10年。当時の山田さんの手帳には、「西日本でもトップクラスの解体業者になる」という夢が記されていた。今後はさらに大きな100tクラスの解体機も導入し、一歩でも夢に近づきたいという山田さん。同時に、解体業の魅力を自身が最前線に立って次世代に伝えていきたいとも語る。自らの夢と業界の未来を見据えた山田さんの挑戦は続く。

山田さんと奥様で取締役役のルミ子さん。山田さんが持つ色紙の言葉「解体人なら挑戦だて」は、この地の方言で書かれた同社のモットー

